



過去の栄光に捕らわれない

インブルーブで優秀賞

11月13日(火) 14:00～
朝日生命ホールにて第31回
インブルーブKANEKI21が
開催されました。

当日は5件の優秀提案の発表があり、当社の改善事例「ガッチ」グリーンフロント堺寮での取組みも優秀賞として発表いたしました。

「ガッチ」 グリーンフロント堺寮での取組み



発表者 : 株式会社フォービル 森本 隆之
共同提案 : 清水建設株式会社 永栄 司
現場名 : グリーンフロント堺寮



企業であれば、過去の栄光のひとつやふたつあると思います。

過去の成功があるからこそ、企業の存在そのものがあるわけで、それは評価すべき成功であることに間違いはないと思います。

企業はそうした成功を地盤として、お客様の信頼を得て、継続的な取引を続け、発展を遂げたきたからです。評価されて当然です。

取引先であるお客様にしても、過去の業績は評価されるでしょうし、実績からの継続取引は当たり前と思われがちです。

しかし、それは今までの商取引での話であって、これからもそうであるかどうかはわかりません。

仮に、ライバル企業が革新的で、魅力ある商品を低価格で打ち出してきたとすれば、お得意先はどのような動きをされるでしょうか。

それは、ビジネスの選択として、当たりに、ライバル企業の商品の購入を判断するはずで

いくら、過去に協力してきたからと

言っても、ライバル企業以上に魅力的な商品がなければ、お得意先の選択範囲にも選ばれなくなります。

当たり前の話ですが、過去の栄光の上にあぐらをかいてるようでは、ビジネスチャンスは確実に失います。過去の栄光は、それはそれで大事にするのは良いと思いますが、それよりもっと大事なものは、未来の成功です。そのために、今、何をするかということが重要です。

建設業は同職種・同業者の競争力は似たり寄つたりの場合が多く、革新的商品はめったなことでは発生しませんので、過去の実績ばかりが重視されがちです。

そうした業界にあっても、未来の成功を目指して、絶えず業務の改善を行い、新企画・新商品を立案していかないと、あつと言う間に淘汰される会社になってしまいます。

どんぐりの背比べで争うのではなく、誰もやらない新しい市場を開拓し、そこで大成功をやらかすのです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

日暮れが早い季節です

12月は事故・災害が多いと言われます。年末帰省・お正月を控えて、なんとなく慌ただしく、心にゆとりが無くなる影響だと言われます。

そうした心理的な影響はあると思いますが、それに加えて、12月は冬至を迎え、一年で一番、日が短い月です。私達、建設作業は屋外作業が中心で

すので、仕事は日差しのある明るいほうが勝負です。その明るい時間が、どんどん短くなるのが、仕事への焦りにつながる面があると思うのです。当然、一日の仕事量も低下しますので、工程にも影響を与えます。余裕ある工程を確保下さい。今月も事故がありませんように。(拝)

2018年 安全成績

■現場災害 H30.1.1-H30.12.3	
休業災害	----- 2
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■交通災害 H30.1.1-H30.12.3	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 3
合計	----- 3